泊小学校だより　　令和元年１２月４日

～潮風の中でたくましく～

第 17 号　校長　山本　洋介

師走の声が聞かれ、急に朝夕の冷え込みも厳しくなってきました。この急激な気候の変化で体調を崩し気味の子どもたちも出てきています。また、報道等でもインフルエンザの話題が登場してきました。

２学期も残り一ヶ月たらずとなりましたが、元気に終業式を迎えられるよう子どもたちの健康に留意しながら頑張りたいと思います。ご家庭でも子どもたちの健康にご留意いただきますようよろしくお願いします。

＜東京オリンピック　国旗にこめられた思い（６年道徳（日本文教出版社）より＞

現在、「いだてん」という番組で東京オリンピックに向けての準備段階のことが放映されていますが、その 1964 年東京オリンピックの時のことが６年道徳の教科書に載っていたので紹介します。

参加国は９４カ国で、参加国の国旗は、競技場、開閉会式、表彰式、空港などで使用されましたが、大切なものなので間違いがあったら国際問題になることもあります。その大事な国旗づくりを任されたのは、当時２１歳の大学生吹浦忠正さんでした。吹浦さんは、十代のうちに国旗の本を出版するほど知識を持っていましたが、当時の日本には国旗についての詳しい資料がなく専門家もいなかったので、外国の資料をもとに見本を作って送り、各国のオリンピック委員会に認めてもらうしか方法はありませんでした。（当然電子メールなどなく、やりとりはすべて郵便で行わざるを得ませんでした。）ですから、認めてもらわなければこのやりとりを９４カ国と、長い間行い続けることになるので相当量の時間を要する作業となりました。

そんな中で、アイルランドとの交渉が長きにわたるものとなりました。アイルランドの国旗は、緑・白・オレンジの３色が縦に並ぶもので、特に難しそうなものではありませんでした。しかし、緑色の部分が違うということで、この先８回のやりとりが行われることになります。（手作業で布を染める方法での国旗づくりです。）アイルランドからは、7 作目が認められなかった際、『この緑は、私たちの国の誇りを表す色なのです。』という言葉が添えられていました。吹浦さんは、もう一度アイルランドの歴史や風土を学びなおし、アイルランドは、森と湖の国で、エメラルドの島と呼ばれていることを学びとりました。そして、やや青みがかった緑色に染めた８作目の見本で認めてもらうことになったのです。これは、オリンピック開催のわずか１０日前のことだったそうです。

このことを通して、吹浦さんは『国旗を知ること。それが、国際理解の第一歩になる』ということを確信しています。

＊この学習を通して、2020 東京オリンピック・パラリンピックに受け継がれたい思いや進んで他国の人と交流したり、親しくするためには、どんな心を持つことが大切なのか考えていくことになりますが、隣の人を大切にするために、「今の自分に必要なことは何か」を考えることも大事なことになると思います。

１２月の目標「自分たちの生活をふりかえろう」

ちょうど、６年生は１２月３日にお寺に出かけ、座禅学習にて『自分自身と向き合うこと』の学習をしてきたところですが、どの学年も自分の「今」を見つめることで、次の成長につなげていってほしいと思っています。

人生は、楽しい瞬間ばかりではありません。苦しいことや悲しいことに出くわすこ　とだってよくあります。しかし、それは不幸なことではなく、人生の一つの過程です。自分の苦しいことや都合の悪いことに出くわしても、疎ましく感じて反発したり、周りの人と距離を置こうとしたりせず、自分自身を静かに見つめ、どんな時も精一杯生きていけるようにしたいものだと思います。